

ドイツ連邦食料・農業省プレス公告
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft
NO 37

NO 37

2016・9・17

1 成長の早い樹種の栽培に新しい刺激を

—第25回国際ポプラ委員会がベルリンで開催—

2016年9月13日から16日まで40カ国以上から250人の専門家が、ベルリンのシェーネフェルトの会議センター「鷲の家」に集合した。ここでは、ポプラ、ヤナギそしてその他成長の早い樹種の重要性について、再生可能な資源としてそしてバイオ経済への貢献について議論された。国際ポプラ委員会の主導するこの会議は、連邦農業省とFAOの支援のもとで開催された。この会議の企画準備は、再生可能原料エージェンツ（FNR）が支援した。この科学プログラムは、200以上の専門報告並びにベルリン内外、ヘッセン州、ニーダーザクセン州、そして南スウェーデンへの研修旅行が含まれている。

連邦農業省ペーター ブレーザー政務次官が、気象保護のために森林と木材の重要な役割を強調した。さらに木材は、重要な再生可能な原料の1つとして、バイオを基礎とした経済のために、決定的な役割を果たす。成長の早い樹種の栽培増加も含めた”バイオマスの供給強化、並びに林業植物の品種改良の領域における可能性を、まだ汲みつくしていない”と、ブレーザーが説明した。彼は、共同での準備と会議の実施に際して、FAOとの共同活動を賞賛した。

そして委員会の制度的な新しい方向を歓迎した。これには、成長の早い樹種栽培のための新しい刺激もまた、期待することを含めている。スウェーデン農業科学大学（SLV）の教授 Martin Weih 教授は、国際ポプラ委員会の座長である。ポプラ、ヤナギそして他の成長の早い樹種が、木材からのバイオ燃料まで利用の多様性に際して、決定的な役割を果たしている。

そして彼は付け加えた：この樹種は、農林業において地力の低下した土地の回復と、困難な状況下での砂漠化との闘いにも貢献する。ポプラとヤナギは、自然的に生育あるいは植栽された土地が、世界中で1億 ha 以上存在する（それは、ベルギー、フランス、ドイツの国土を一緒にした土地面積よりも大きい）。数十年来、農業者と林業経営におけるポプラとヤナギの栽培が、優先されてきた。特にこの樹種は、早い成長と簡単な増殖、不良な土壌への適応能力そして利用可能性の広範な多様性のために。

ポプラ、ヤマナラシ（ポプラの一種）そしてヤナギは、ドイツにおいて全森林面積約1,140万 haのうち、147,000 haの面積に達している。勿論、工業的に利用する原料材生産のためのポプラとヤナギの栽培は、重要性を増している。農用地でのポプラとヤナギのバイオマス・プランテーションの施設は、この間に約7,000 haに拡大された。ドイツは、2030年までに再生可能エネルギーに対する割合向上のために、EUの野心的な目標を支持する責任を有している。

成長の早い樹種からのエネルギー木材の生産は、エネルギー価格の進展と政策的な支援条件に依拠したところの、関心を呼ぶ優遇措置にかかっている。

2 牛乳危機との闘いのために公的な刺激を

ー EU牛乳量削減プログラムで1億5,000万ユーロ

連邦農業大臣シュミットは、期限付きの牛乳量削減のための同盟法の助成金導入規定が、今日（9月12日）署名された（牛乳量削減助成規定）。ドイツの牛乳農家は、明日から1億5,000万ユーロ（約180億円）のEU牛乳量削減プログラムに参加できる。これについて連邦大臣が説明した：”ドイツの牛乳農家の状況は、依然として困難である。私は、春以来ヨーロッパの同僚大臣とEU一委員会に、第2のEU-支援プログラムの強化を働きかけてきた。私の目的は、牛乳量の分野と財政支援を、より強く結びつけることである。

これは、ブリュッセルとの交渉の中で成功した。公的な支援は、危機解決のための刺激として、貢献しなければならない。我々は、少ない牛乳量と良い価格を必要とする。しかし、酪農工場への原料乳の提供と乳製品の販売可能性との間の合意でもって、将来的な市場構成、牛乳経済の課題が形成される。

連邦政府は、牛乳分野における構造上の改善に努力し、そして必要な改革に際して牛乳業界を支援する。この構造適応無しに、この分野は次の危機にまた直面する。カルテル法に際しての例外と、量規律に対しての直接援助の結びつきでもって、我々の刺激と法的可能性を追求する。私は、9月15日に市場関係者を、再び連邦農業省に招き、そして構造改善の歩みについて、私に報告させる。連邦農業省は、この支援実施のために全力で作業している。

我々の目的は、効果的そして可能な限り官僚主義無しに、この支援を活用できることである。この支援策を管轄する各州は、牛乳量削減プログラムに関する、申請一助成金行政機関を引き受ける。私の感謝は、連邦農業省の仕事仲間に捧げたい。各州は、このEUプログラム実施のために、必要な技術的、行政的構造の形成に際して、重要な支援を行う。

背景：

EU一牛乳量削減プログラムは、第2のEU一補助金支払の総額5億ユーロ（約600億円）の一部である。EU一牛乳量削減プログラムの主な柱は、以下のとおりである。

- ◎ 牛乳生産の任意削減のためのプログラムは、1億5,000万ユーロ（約180億円）を含んでいる。これは、EU域内で統一的に調整されている。
- ◎ 牛乳生産者は、原料乳削減量 kg 当たり 14 セント（約 16,8 円）の補助金を、得ることができる。牛乳生産農家は自らの牛乳供給を、証明できるような削減をしなければならない。そのため、証明期間内に専門家の協力が必要となる。
- ◎ 全体的にこの補助金のため、4つの申請ラウンドがある。最初の申請ラウンドは、2016年9月12日から21日に、削減期間2016年10月から12月までの分を申請できる。
- ◎ 1億5,000万ユーロの全体額ないし107万tを越えると、全ての申請が最後のラウンドで、自分の持ち分に応じて縮減される。

3 シュミット大臣：畜舎における家畜のより多くの福祉を 一家畜の福祉専門委員会が最終報告書を提出

家畜の福祉専門委員会は、最後の会合で最終報告書を連邦大臣シュミットに手渡した。連邦大臣シュミットが説明した：“私のイニシアチブ「飼育の問題一家畜のより多くの福祉の新しい道」の支援に関して、専門家グループに感謝している。ドイツは、家畜の福祉問題に関して、先駆者でなければならない。そのため、我々は競争力のあるそして実践的な問題解決を、必要としている。

この専門委員会は、「対話一家畜飼育から家畜保護まで」の中で、多くのことを達成したことを示している。現在、連邦農業省では、私が 2017 年始めに発表する公的な家畜の福祉ラベルの導入を、準備している。この委員会の長、ゲルト リンゲンは補足した：“家畜の福祉の専門委員会には、実践現場、科学、職能グループ、教育並びに家畜の保護団体、消費者団体からのエキスパートが、代表として参画している。”我々は、適切かつ厳しく家畜の保護について議論した（飼育から消費者の期待まで）。私は、自ら困難な問題に際して一致した解決案に行きつき、そして提出された最終報告を、満場一致で可決したことを喜んでいる。”

家畜の福祉専門委員会

かつて助言者グループが、2014 年 10 月 6 日にベルリンで彼らの構成した会議に集合した。その経過を踏まえてこの委員会は、17 人の選定された人で構成されている。この委員は、家畜飼育における家畜保護の分野で、重要な貢献を果たしている。委員長は、ニーダーザクセン州のかつての農業大臣ゲルト リンデンである。この最終報告書は、4つの態度表明をしている。（例えば「尾を噛む」テーマについての推薦方策について。）

2016・9・19 訳 青森中央学院大学 中川 一徹
